

岩手県立水沢商業高等学校 菅原 秀彦

岩手の加藤さんより引き継ぎました、会員の菅原と申します。よろしくお願ひします。

本校は平成の大合併により6市町村がひとつになった、岩手県南部の奥州市に学校があります。県内では「商業学校」と名前がある学校は3校とのみとなってしまいました。また、本校では商業科目の定時制課程も平成24年度を持って閉科となっています。定時制課程の閉科と同時に事務職員の定数も見直され、本採用職員は事務長と私の2名で、8ヶ月のみ臨時事務職員を任用しています。臨時事務職員がいない4ヶ月間ほどはトイレに立つのもなかなか大変でなんとかやりくりしているのが現状です。

さて、私自身も商業高校を卒業しています。当時の先端である情報処理課程。パーソナルコンピュータがいまほどパーソナルではなく、特殊な存在であった時代なので、1年次は商業科と同じカリキュラムで「珠算」や「簿記」を勉強しました。学校でのコンピュータの実習はなく、机上でのプログラミングという時代でした。(動くかどうかわからないプログラミングをひらすらやらされた。)3年目に学校でプログラミングができる環境になりました。

卒業後、小学校事務職員として仕事を始めました。学校にはコピー機とワードプロセッサはありました。ファクシミリはまだ無し。電話は黒電話で切り替え機付き。コンピュータは仕事で使える価格ではない。インターネットは言葉も存在しない。そんな時代。

添書も罫紙にカーボン紙を挟んで(B5判でしたね)ボールペンで作成していました。

時代が移り変わり、あっという間に机上からカーボン紙と罫紙がなくなりネットワークにつながったコンピュータが鎮座しています。構内電話回線が張り巡らされ、コピー機やファクシミリが当たり前のようにあります。

そして、東日本大震災。停電で電気が使えません。倉庫に捨てないであった、罫紙に手書きで書類を作成し、コピー機が使えないので必要部数をさらに手書きしました。連絡する方法としては、コンピュータが使えないのでメールはだめ。構内電話も災害時緊急用以外は電源が入らないので使えない。もちろんファクシミリもだめ。携帯電話は使えるキャリア、使えないキャリアあり。郵便も実は不安定で(窓口でいつ届けられるか不明といわれた)、連絡もままならぬ状況。

普段は気にならないことでも、いざ使えないとなると非常に不便となります。だからといって、コンピュータや携帯電話を使わない時代には戻れません。また、ワードプロセッサがあっという間になくなったように、これから10年で仕事の道具がどのように変わるか見当もつきません。

それでも、どのような状況になっても、事務屋は紙とペンがあればどこでも仕事ができるなとも思っています。

仕事の効率化にはツールが不可欠。でも、使えない時はどうするかを考えてみませんか。次は、東京都戸張さんです。